

## 待降節 4 主日

第 1 朗読 ミカ 5・1-4a  
第 2 朗読 ヘブライ 10・5-10  
福音朗読 ルカ 1・39-45

2021.12.19 カトリック高円寺教会  
ジョン・ジュン神父 (クラレチアン宣教会)

世間では、自分と関わりのない人や、親しくない間柄の有名人や権力者、地位が高い人に会うには、必ず、誰かの紹介や仲介人が必要になります。しかし、わたしたちが神様に会うには謙虚な精神と態度だけでいいです。

### 第一朗読 預言者ミカ

預言者ミカの時代、イスラエル人の生活や経済的悪くなり、暴力に満ちていました。裁判所の裁判官は収賄で腐敗していました。司祭と預言者もお金に目がくらんでしまった人もいました。権力のある人が全ての土地を管理し、貧乏人から利益を搾取していました。王様ヒゼキヤが良くても、国を管理する能力がないから、イスラエル人たちは、自分たちの、未来の希望をなくしていました。

預言者ミカが言われました。救世主が現れます。彼はイスラエル人を救われる人、彼は産まれたときからとても謙虚で質素でした。

### 第二朗読 ヘブライ人への手紙

旧約時代、人が重病から回復すると、死から逃れて、自分の不潔な犯罪のせいだと思われていました。罪の赦しを得るため、小羊を買って、いけにえとして神殿に持って行き、祭儀を捧げていました。しかし、預言者はこのような典礼を否定しました。なぜなら、この典礼は本当の悔い改めではないからです。

「神よ、御心を行うために」

御心はクリスチャンの使命を代表することです。この使命は物質的な奉納を越えました。この使命は心から悔い改めることで、神様の言葉を認識し、理解し、耳を傾けることです。

### ルカによる福音

マリアは急いでエリザベトを訪れました。二人の女性が、妊娠している喜びを分かち合いました。

エリザベトは妻として一番、身をもって感じたことがあります。イスラエルの中では、子供を持っていない女性は恥だと思われていたことです。今は彼女の夢が叶いました。

4年前に、わたしがいる教会で、ある若いカップルの結婚講座と結婚式を終えた後、二人が一番望んでいることは何かを尋ねました。彼らは「自分たちの子供を持つことです」と答えました。理由を聞くと、彼女の身体の問題で、残念ながら何回も失敗したそうです。その後の彼女はずっと泣いて、悩んでいました。そして彼女は「祈ってください」と言いました。

3年後に彼女が妊娠しました。慎重に大事に、大事に何事も一番の注意を払っていました。ようやく、無事に赤ちゃんが生まれました。その時の気持ちは言葉では伝えられない程喜びに満ちていました。

エリザベトもあの歳で妊娠して、自分の夢を叶えることができました。どれ程喜び満ちていたでしょう。

マリアとエリザベトの挨拶から始まっています。この挨拶は平和であり、平和は神様からの祝福です。この平和はメシアが来る預言です。

この祝福は救いと喜びを代表しています。マリアの祝福は神様の救いと解放を感じます。この祝福でマリアは神様の言葉を信じ、神様の言葉を行います。

ポイント：

信じることは簡単なことではありません。信じるには、三つの条件があります：冒険とお任せと諦め。

冒険：結果と未来がわからなくても信じ続けることです。

お任せ：信頼を持ってします。

諦め：自分の弱いところを認めて、神様の意向に委ねます。

マリアは全ての人たちの味方で、信頼を持って神様の御心を行います。